

## 横浜国立大学 経営学部

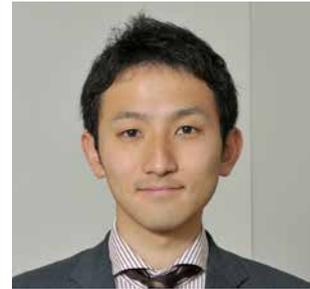
経営学部は1967年に設立された、東日本の国立大学では唯一の経営学部です。実践性に重点を置いた研究教育を通して、企業経営において優れた計画、遂行、統制、意思決定を実践していくための方法を学びます。



■大学生  
大森真菜 さん



■先生  
山岡徹 先生



■卒業生  
田中茂揮 さん

### CONTENTS

- プロフィール
- 大学生活について
- 就職活動、仕事について
- 5年後に向けて
- 高校生へのアドバイス

#### ●プロフィール

#### 横浜国立大学 経営学部の特長を教えてください。



■先生

横浜国立大学は文系、理系両方の学部を持ち、現在、4学部が置かれています。

経済学部には、経済学科と経営学科をそれぞれ配置している国立大学が多く見られる中で、横浜国立大学の場合は経営学部が1学部として独立しているのが特長です。経営学部には50名ほどの専任教員がいますので、経営学を専門で学びたい学生にとっては魅力的な学部と言えるでしょう。

さらに横浜国立大学の特長は、文系と理系の学部が一つのキャンパスに集結されている点あげられます。すべての学生がワンキャンパスで学ぶことにより、様々な学部にも所属する学生が学部の枠を越えてクラブ・サークル活動を楽しんだり、他学部の学生との交流を通して、さまざまな考え方や価値観に出会える場にもなっています。

経営学部の学生数は、1学年で300名前後です。教員と学生がお互いに顔の見える存在として刺激しあいながら、質の高い教育を受けることができます。

経営学部には4つの学べる領域があります。一つは一般的な経営学の領域です。経営戦略、組織マ

ネジメント、人的資源管理などについて学び、新しい時代にフィットした企業戦略を立案できる視野の広い人材の育成を目指します。二つ目は、会計学や情報学領域に多くの先生がいらっしゃいます。簿記や財務諸表、原価計算などの会計学専門の知識を学ぶことで、実務的な能力を身につけることができます。三つ目は、数学や情報システムなどの数量的手法を使って実践的な学習を行います。いかに経営資源を有効活用し、合理的な意思決定をすることで大きな経営成果につなげるかという学問領域です。四つ目は国際経営学を学ぶ領域です。グローバル展開する企業がどのように現地化を図るのか、異文化コミュニケーションの技能など、国際的な経営に焦点をあてて学んでいきます。

### 先生の研究分野について教えてください。

#### ■先生

組織のマネジメントや組織経営を研究テーマとしています。中でも、組織内の部門割りを再編する、部門間のコミュニケーションを活性化するなど、組織の現状を変えていく際に、どのように、またどういった手順を踏めば円滑に組織を変革することができるのかを研究しています。

経営スピードがどんどん早まり、組織の柔軟性が求められています。組織改革の段階でつまずいてしまう企業も少なくありません。変革にあたり、経営者や管理者が何を最優先に考えて行動すべきなのかを、学問の領域から探っていきます。

一般に馴染みのある職種で言えば、経営コンサルタントがあげられますが、彼らは短期間のうちに成果を出すことを求められます。それに対して私たちは、明確な答えを出すのではなく、経営者や管理者に疑問を投げかけることで問題提起を行っていくのが役割であると考えています。

### ●大学生活について

#### 大学進学にあたって周囲のアドバイスはありましたか？

##### ■大学生

両親は国立大学への入学を希望していました（笑）。

そして、高校の先生からは目標は高い方がいいと言われてきました。高い目標に照準を合わせて頑張れば、大学受験に失敗することはないだろうという発想です。高校では、進路については比較的早い段階で決めることになっており、私は、自宅から通える範囲の国公立大学を志望校に考えていました。生まれも育ちも横浜で、地元にとっても愛着があったため自然に横浜国立大学になりました。



##### ■卒業生

私は誰かに意見を聞いたことはありませんが、横浜国立大学に通っている先輩に大学のこと聞きながら、受験勉強へのモチベーションを高めていました。

高校生の頃は何をしたいかが分からず、幅広い分野を学ぶことができる、イメージとしては社会学系の大学を志望していました。いくつかの大学のオープンキャンパスに参加しましたが、ある時、商学系の先生の模擬授業を体験する機会があり、そこで実務に近い学びは面白そうだと感じました。それ以来、関東圏で商学系の勉強ができる国立大学を検討し、最終的に横浜国立大学に決めました。

### 経営学部の学生の印象を教えてください。

#### ■先生

田中さんのように、実務的な内容に興味を持っている学生が多いかもしれませんね。2年生の秋から始まるゼミナールでは企業訪問を行うこともあります。また、学部の制度として企業へのインター

ンシップ制度もあります。机に向かって勉強するだけでなく、実際に企業を訪問する体験型学習を積極的に取り入れていますので、そこに魅力を感じているのでしょう。

2人に関して言えば、田中さんは情熱と正義感を持った学生でした。彼にはゼミナールのリーダーを任せていましたが、学生をきっちりまとめてくれました。たとえば、企業の課題に対して提案する資料作りの際などにも、学生たちに気を配り皆のモチベーションを保ちながら進め、最終的には企業の方の期待をはるかに超えたプレゼンテーションで相手をびっくりさせてくれました。「ここまで考えてくれるなんて!」と、企業の担当者が感動していたことを覚えています。何か行動を起こす時は、周りを巻き込みながら徹底的にやってくれる学生でした。

大森さんには副ゼミナール長をやってもらっていますが、しっかり役割を果たしてくれています。責任感が強く、抜けがない。そして、しっかりしているだけでなく、学生同士で話し合っている時には、自分の意見をきちんと相手に伝えるという意思の強さがあります。大森さんが周囲の意見に流されてしまうと、ゼミナール全体が右往左往してしまうので、そういう意味ではゼミナールのお母さんの存在として締めるところは締めてくれます(笑)。

### 入学後にどんなことを感じましたか?

#### ■大学生

先ほど先生もおっしゃっていましたが、4学部が一つのキャンパスにあり文系と理系の学生が常に交流できる環境には、他学部の学生の考え方や話を聞くことができる面白さがあります。また、学部の垣根を越えた学問の交流や、経営学部で言えば学年の早い時期にインターンシップに参加できるなど、積極的に学べるチャンスがたくさんあります。学内・学外のさまざまな活動に



積極的な学生、海外留学する学生など、アクティブな学生が多くてとても刺激を受けますね。

#### ■卒業生

私は、想像していたよりも関東圏出身の学生が少ないことに驚きました。たまたま私が出会っていないだけかもしれませんが…(笑)。

#### ■先生

客観的な出身高校別の学部入学者数のデータでは、神奈川県出身者が25%くらいです。東京都出身者はそれよりも少なく、田中さんが言うように関東圏をすべてプラスしても、半分くらいではないかな。横浜国立大学の入学者は全国各地に分布しているので、日本中から集まったさまざまな学生に出会えるというメリットもあります。

### 授業ではどのようなことを学んでいますか?

#### ■大学生

1年次の必修授業に「簿記」があります。会計の具体的な方法を学ぶ授業ですが、初めて受講した時に、簿記って面白いと思いました。2年生になると「会計学原理」という授業で、簿記より少し大枠の“会計とは何か”という内容を学びました。この授業では企業がどのようにお金を管理し、記録しているかを知ることができ、とても勉強になりました。

山岡先生が担当されている「経営管理論」で、企業分析の仕方を学んだことも印象に残っています。企業を見る際の考え方、2つの企業を比較する際の分析手法など、視点そのものを提示してもらうことができました。この授業を受けてから山岡ゼミに入ったので、学んでいたことをゼミナールの

研究で十分に活かすことができます。

### 山岡ゼミでは、組織マネジメントをテーマにされているそうですね。

#### ■先生

ゼミナールでは、いろいろな方法で組織のマネジメントを学生主体で学べるように工夫しています。

一つはテキストで学びます。テキストの内容から知識を習得するというより、ディスカッションを重視しています。毎回、テーマに対して活発に意見を戦わせながら、担当の学生がその討論内容を板書していきます。



二つ目は、月に一度行われるディベートです。賛否両論あるだろうと思われる経営テーマを掲げて事前準備を行い、2つのチームが討論していく形式です。学生の中には、その場の空気を乱したくないという思いから、自分の意見を積極的に発表しない人もいるでしょう。しかし、社会では言うべき事は言わなければならないし、それで信頼関係が崩れることはありません。意識的に討論の場を作ることで、組織の中でのコミュニケーション能力を身につけてもらいたいと考えています。

この二つに加えて、企業訪問もゼミナールの特長です。企業から実際に課題を提供していただき、この課題を解決するために研究・実地調査などを行い、その研究結果を企業の方々にプレゼンテーションする取り組みです。

大学生同士の絆を旅行で深めてもらうというコンセプトで、鉄道会社と協働で商品企画を行った大学生向け旅行プラン「きずなとりっぷ」などの実績もあり、必ずしも組織マネジメントだけではない、実践的な仕事の進め方を学ぶ多くのチャンスを設けています。

#### ■大学生

山岡ゼミで組織マネジメントについて学んでいます。ゼミナールの特長は、学生が自分たちで研究内容を定める方針であり、毎年、研究内容が変わることです。現在は「変革」をキーワードに、専門書を読んで皆でディスカッションを行っています。実在の企業を分析し、その企業の問題点をどう改善していけばよいかを考えます。結論を出すというよりは、ディスカッションの過程で問題点に対する互いの視点や意見を学生全員が共有することを目的としています。

#### ■先生

例年、学外の研究コンペにも参加しています。このコンペは、神奈川県内の経済同友会に参加している企業が、実際に抱えている実務的な課題を私たちに提示してくれます。それを、神奈川県内の約20の大学がそれぞれ学生チームを作り、企業の担当者と連絡を取り合いながら、課題の解決策を考えます。実地調査を繰り返して、解決方法を見つけ、最終的には研究成果を企業の経営者にプレゼンテーションをして、点数をつけていただきます。私のゼミナールでは、「企業理念をどのように浸透させるか」という課題をいただき、研究結果を企業にプレゼンテーションしました。

また、横浜市内の地元商店街の方から依頼を受け、商店街の活性化についての取り組みに関わったこともあります。商店街の組合という組織では、いかに大勢の店主さんを巻き込んで商店街を盛り上げていくかが大きな課題です。この依頼では、学生のアイデアを実行することが前提でしたので、ゼミ生と一緒に何度も商店街で実地調査を実施しました。こうした取り組みは学生にとって大きな経験値になりますし、経営を考えるきっかけにもなっていると思います。

## ●就職活動、仕事について

### お仕事の内容を教えてください。

#### ■卒業生

旭化成メディカル株式会社の医療機器を扱う部署で、営業職として働いています。私たちが世の中に送り出している医療機器は、血液を体外に取り出し、血液中から病因物質を取り除いてきれいな血液を体内に戻す「体外循環療法」という治療に使用するものです。病気の治療は体内に薬を入れる方法が一般的ですが、患者さんにとってより安全に血液浄化ができる方法として、この医療機器を提供しています。



機器の使い方を医療現場のスタッフにお伝えしたり、この治療法のすばらしさをお話し、医師に機器をお勧めするのが私の仕事です。MR（医薬情報担当者）のように病院での営業活動が主な業務ですが、扱っている医療機器のプロモーションの方法などを社内でじっくりと検討する業務もあります。

### なぜ現在お勤めの会社を志望されたのですか？

#### ■卒業生

旭化成株式会社に入社を決めたのは、就職活動中に社員の方と直接お話したことが大きかったですね。その方は私に「営業職は素材を渡されて、活用法を切り拓いていくのが仕事です」とおっしゃったのです。その人は、不織布を使って赤ちゃんの肌にやさしいオムツの開発に携わられた方でした。技術分野の社員とプロジェクトを組んで、これまで世の中になかった製品を作られたのです。このエピソードを聞いて感動！この会社であれば、私も新製品の開発などに積極的に取り組んでいくことができるかも知れないと感じたのです。

### 仕事のやりがいを感じる瞬間は？

#### ■卒業生

先ほどお話した通り私がこの会社で実現させたいことは、会社のスローガンでもある「昨日まで世界になかったものを。」創り出すことです。営業として世の中のニーズを察知し、それを技術分野の社員に伝え新しいものを一緒に創り出したいと考えています。

メディカル機器の分野は完成品を提供している性格上、他の事業部と比べるとゼロから新しいモノを創るというチャンスはそれほど多くはないでしょう。体外循環療法という治療法はまだ未知の部分も多く、これから製品の位置づけを明確にしていかなければなりません。私たち営業職の力は、そこでも発揮できると思います。安全性が高く、患者さんのためになる治療法だということを積極的にアピールし、ご理解いただいたときはとてもやりがいを感じます。

## ●5年後に向けて

### 将来の夢や目標を教えてください。

#### ■大学生

最近周囲から、「人に伝えることが上手だね」とよく言われます。具体的には何も決まっていますが、例えば営業職や広報の仕事など、相手に何かを伝える仕事が自分に向いているのかもしれないと感じています。就職活動はこれからですが、大学を卒業するまでいろいろなことに挑戦したいです。

## ■卒業生

弊社の医療機器を、さらに世の中に広めていきたいです。海外では保険制度が日本とは異なり、越えなければならない障壁がいくつもありますが、体外循環療法という治療法を世界に発信していく事に携わっていきたいです。もともと商品開発に興味を持っていましたので、将来的には、商品開発の分野で活躍していきたいですね。

## ■先生

常に考えているのは、社会に出ても“いつまでも残るもの”を学生たちに伝えたいということです。それは知識かもしれませんが、実務の世界の場合、最新の経営理論といっても10年も経てば使い物にならなくなるものも少なくありません。ですから、時流を追うというよりも、経営学部の教員として、基礎に立った考え方を教えるように心がけています。物の考え方や伝え方、聞き方は、社会に出ても必要不可欠です。これらの力を伸ばせるように、講義やゼミナールを工夫したいと思います。

## ●高校生へのアドバイス

### 高校生へアドバイスをお願いします。

#### ■卒業生

勉強と部活という高校3年間を過ごしました。視野を広げるために、もっといろいろなことにチャレンジしておけばよかったと少し後悔がありました。大学入学までに見聞を広げておけば、大学生活がより有意義になると実感したからです。大学生になれば学ぶことを自分で決めて、何ごとに対しても自ら行動を起こしていくことが必要になります。さまざまな経験を通して積み上げてきた情報や経験は、いろいろな場面での意思決定に大きく影響してくるのです。興味のあることをたくさん見つけてどんどんチャレンジし、たくさんの経験をしてください。



また、何かに悩むことがあれば周囲の人に相談をしましょう。これまで多くの経験を積んできた両親、先生、先輩の話をしっかり聞いて、それを踏まえた上で自分の考えがまとまっていけばいいですね。

#### ■大学生

田中さんと同じように、私も行動範囲が限られていましたね。中高一貫校で環境もそれほど変わらない中、勉強と部活の生活でした。大学入学後、さまざまな経験をするうちに、あの時の両親や先生のアドバイスはこういうことだったのか、と気づくこともたくさんあります。フットワークを軽くして、いろいろなことにチャレンジし、行動してみてください。

#### ■先生

悩みすぎないことが大切です。何を学ばばよいのか、どの大学の、どの学部を選ばばよいのか、どんな企業に就職するのかと入り口で悩む前に、まず、真剣に勉強してください。大切なのは、どの大学であろうと、入学後、そこで自分がどう行動を起こすかです。

しっかりした目標が定まっていないなら、大学でさまざまな学問に触れながら、目標を決めていけばよいのです。

気になる大学のオープンキャンパスに足を運んで模擬授業を体験したり、学生に話を聞いたり、教授に質問してみるのも大学選びの参考になります。

## 先生と同じ研究をするために、今、高校生ができることはありますか？

### ■先生

小さい組織やチームでリーダー的な立場で、組織をまとめる経験をして欲しいですね。そして、たくさん失敗もしてください。失敗体験には学ぶことがたくさんあるからです。なぜこの組織はうまくいかないのだろう、どうしたらいいんだろうと悩み、考えた経験を持っている方が、組織論の勉強をする際に具体的な問題意識を持って取り組めるのです。

実は、私自身も組織をまとめることは苦手でした。学生時代はチームのリーダー的な役割を任されることが多く、責任感からくるプレッシャーや緊張感でその役割を十分に果たすことができなかったという経験があります。しかし組織論を学び、専門的な知識さえあれば誰でもリーダーとして責任を果たすことができると思えるようになりました。

組織論は、リーダーに必要な技能を身につけたいという人には有意義で魅力的な学問分野です。

## リーダーの資質とはなんでしょう？

### ■先生

その答えはありません。

ただし、リーダーにとって唯一普遍的な条件は何かという問いに、経営学の父と呼ばれるピーター・ドラッカーは、「フォロワーがいることだ」と答えています。どんなに頑張ってみたとところで、付いてくる人がいなければリーダーにはなれません。その人に付いて行きたい、その人の目指す方向と一緒に進みたいという周りの人がいて、初めてリーダーになり得ます。そういう意味において、リーダーとは自分が目指す方向に人を惹き付ける魅力を持っている人かもしれませんね。



## 高校の学習と将来のつながりを、どのように捉えればよいでしょうか。

### ■先生

入試科目の知識は受験勉強には必要ですが、大学の学びに直接結びつかないものもあるかもしれません。しかし、世界史を勉強したことで、たとえば社会に出てから海外赴任をした時に現地での人間関係の構築に役立つこともあるでしょう。また、数学の問題を解く際の効率性や順序だてといった工夫は、“考え方”となって一生役に立ちます。

高校ではとても広い領域の基礎学習を行い、その基礎をベースに、大学では専門性を突き詰める学びや研究に変わっていきます。高校時代にしか得られない知識を大切にしてください。それらはいずれ、社会で生きる人間としての教養につながっていくのです。

## ●インタビューに答えていただいた方々●



■先生

### 山岡徹先生

横浜国立大学経営学部 教授

滋賀県立彦根東高等学校出身。京都大学経済学部卒業。東海旅客鉄道株式会社 (JR 東海) 入社。03年、京都大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学、以後、横浜国立大学経営学部専任講師、同助教授を経て現職。京都大学博士 (経済学)。



■卒業生

### 田中茂揮さん

旭化成メディカル株式会社 血液浄化事業部 東日本営業部 病院第2T 勤務 (2016年取材当時)

国立東京学芸大学附属高等学校出身。横浜国立大学経営学部国際経営学科卒業。旭化成グループの医療機器を扱う部署で、営業職として勤務。患者さんにとって、より安全で高度な治療を実現させる医療機器を提供している。



■大学生

### 大森真菜さん

横浜国立大学経営学部経営学科3年生 (2016年取材当時)

私立洗足学園高等学校出身。山岡ゼミでは副ゼミ長としてまとめ役を務める。大学祭の実行委員サークルにも所属し、横浜国立大学の大学祭が円滑に開催できるように活動している。